

多面的・多角的に考えさせる学習



多面的・多角的に考えさせる学習って？

道徳科においては、多面的と多角的は、2つの言葉を合わせて意味をなすと捉えましょう。

多面的・多角的に考えさせる学習とは 道徳的価値に根差した問題を、一つの見方ではなく、様々な見方で考えさせたり、様々な角度から考察させたりすることで、道徳的価値についての理解を深めさせる学習のことです。
例えば、以下の **1** ~ **4** の4つの視点が考えられます。



多面的・多角的に考えさせる学習の視点

1 ねらいとする道徳的価値の様々な面から捉えて考えさせる

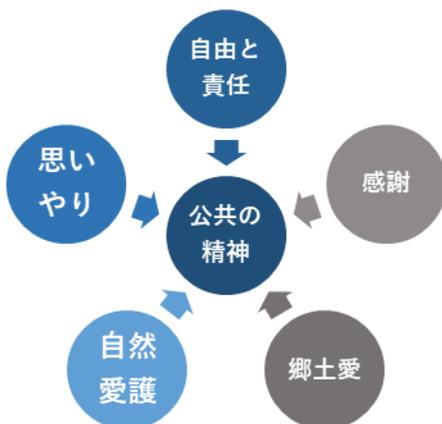
生命の尊さ

- ・ 偶然性
- ・ 有限性
- ・ 連続性 等

「生命の尊さ」を「偶然性」「有限性」「連続性」等の様々な面から考えさせる。

「生命の尊さ」に関するどの面について考えさせることができる教材なのかを教師が捉え、本時の授業の展開を考える。

2 ねらいとする道徳的価値を支える様々な根拠を考えさせる



「公共の精神」を支える道徳的価値には、「自由と責任」「感謝」「郷土愛」「自然愛護」等、人それぞれ、立場や場面などによって様々な根拠があることを考えさせる。

発問例

「主人公が自分の生活を犠牲にしてまで地域のために尽くしたのはなぜでしょうか」

3 様々な登場人物の立場で考えさせる

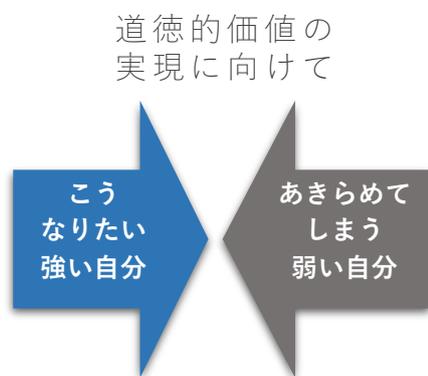


「いじめる側」「いじめられる側」「傍観者」等の立場で捉えて考えさせる。

発問例

「本当の友達がほしいという言葉には、いじめの被害者のどのような思いが込められているのでしょうか」
「大いなる悔いという言葉には、いじめの加害者のどのような思いが込められているのでしょうか」

4 人間の強さや弱さを捉えて考えさせる



あきらめてしまいそうになる心の弱さとこんな自分になりたいという心の強さを捉えて考えさせる。

発問例

「薬物に手を出さないと決めていた〇〇選手がドーピングをしてしまったのはどうしてでしょうか」
「自分からドーピングを認める発表を行ったのはどうしてでしょうか」

多面的・多角的に考えさせる学習のイメージ (4の例)

中学2年 内容項目「よりよく生きる喜び」 教材 「本当の私」東京書籍

1. 人間の“弱さ”について「ドーピングをしたのはどうして？」

以下、予想される生徒の反応

- ・ 周りにばれないと思ってドーピングをした。
- ・ どうしても試合に勝ちたかった。
- ・ 応援してくれている人を喜ばせたかった。

2. 人間の“強さ”について「自分からドーピングを認めたのはどうして？」

- ・ 自分を応援してくれている人にうそをついていることが辛かった。
- ・ 発表して周りから非難されることは怖かったかもしれないけれど、自分らしい生き方をしたかった。

3. 自己の生き方について「よりよく生きるとはどのような生き方？」(終末)

- ・ 自分の弱さに負けてしまってもそのままにしないで、もう一度自分らしい生き方を見つけること。
- ・ 一度苦しい思いをしてもあきらめずに挑戦していくこと。
- ・ 私も嫌だなと思うこともあるけれど、あきらめずに挑戦していきたい。
- ・ 辛いこと、苦しいこともあるけれど、その先に楽しいこと、嬉しいことを見つけたりすること。そういう気持ちを持って、生きる喜びをたくさん感じたい。

参考文献

[1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 11月号

[2] 浅見哲也：宮城県総合教育センター 道徳教育研修会資料